

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100247		
法人名	医療法人岡仁会		
事業所名	グループホームきょうりつ		
所在地	大分県大分市明礪町一丁目2番28号		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100247&S CD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体は医療法人である事から、医療と様々な専門職からのサポートがあり、介護、医療、専門職での支援があり、地域では地元の病院、施設として親しまれてています。事業所としては家と同じ様に安心できるを目標に職員一同で支援しています。日常生活動作を維持する事で生活リハビリにも取り組んでいます。また、自分らしく尊厳を持って死を迎えたいというニーズの高まりから看取りを行っています。ここ数年間で実際に看取りを行い入居者様に最期の時まで安心して生活して頂き、職員は入居者様の今後のかけがえのない時を尊重することができています。自然災害にも備えて法人全体でのサポート体制を構築しています。また、季節感も大切にしており、季節毎の飾り付けや苑内の畑では、季節の旬な野菜を入居者様と一緒に栽培しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍においても、市担当者・運営推進会議の委員の意見や情報・法人の医療機関の医師・看護師の指導を受け、感染予防対策について万全を期するよう努力しています。利用者の外出や地域行事の参加は自粛していますが、施設内で出来ることを工夫しながら、敷地内の散歩や日光浴・レクリエーション・趣味の支援・玄関周辺の花植え・地域の方の差し入れの、梅干しや干し柿を利用者とともに作り、気分転換ができる工夫を支援しています。災害対策では近くに「大分川」があり水害対策や防災訓練を地域の協力で実施しています。法人の空地や駐車場を地域の避難場所に提供したり、地域医療の支援等地域貢献に活かしています。職員は理念の一つ「尊重」を重要視し、声掛けや対応方法に注意し、家庭的な雰囲気大切に、利用者が暮らしやすい生活の支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目のつきやすい場所に理念を掲示しています。最近では、配布する資料にも記載するようにし、より一層の意識づけを行っています。入居者様に対する支援方法の決定にも理念を踏まえています。	理念は、目にふれやすい台所や休憩室にも掲示し、職員はいつでも振り返り、意識を持って支援に努めています。管理者と職員は会議で理念を唱和し日々話し合い、共有して実践へと繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会報を配布して頂いているので、自治会行事は把握ができます。コロナの影響で行事が中止したり、感染予防の為参加できなくなっています。施設の周りを散歩中には地域の方と挨拶や会話などは続けています。	コロナ禍で、地域との交流は困難となっていますが運営推進会議で地域の様子を伺い知る事ができています。施設周辺の散歩では地域の方との挨拶や会話が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方が入居の相談を兼ね施設を訪ねてきます。家族様の悩みや相談を受けますので、必要なら助言や支援を行っています。自治会長を通して、いつでも相談できるように声掛けを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の問題点や入居者様のADL、認知症に関する身近なテーマを議題にあげ、委員に施設の状況をイメージしやすくしています。委員からも要点をおさえた意見を頂けるようになりました。	コロナ禍の為文書による会議が行われています。委員から身近で具体的意見を聞きながら、問題解決に向け話し合いを行っています。事業所の状況も報告し話し合い、サービスの向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設から直接市の担当者に相談や連絡を行い、法人の担当者から市の担当者と連絡をとることもあります。運営推進会議や各種手続きで市役所に伺う時は、直接話せるので、細かい相談をしています。	運営推進会議の出席で相談や意見を頂くと共に、事業所より市役所に伺い相談やアドバイスを受けています。課題解決に向け話し合いや対応に共に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度、身体拘束防止をテーマにカンファを行い、意見を交換しています。法人全体でも、身体拘束防止の研修を行い、また入居契約時に、本人様、家族様に、身体拘束は行わない事を伝えています。	月1回、身体拘束防止についての会議を持ち意見交換を行っています。利用者の人権を守る事がケアの基本であるという認識のもと、身体拘束を行わないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待防止の研修を行い施設でも虐待防止のカンファをします。支援を選別する時も虐待につながらない方法を思索し細かく決めていきます。特に管理者は入居者様の立場で判断するよう意識づけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年々、成年後見制度を利用する入居者様や利用を検討している方も増えています。利用している家族様に制度について何う事もあります。市民後見人要請講座を受講している職員もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り、契約前に施設見学と契約内容の概要を伝え、契約に関する不安や疑問点を確認しています。契約時も、過去の契約時の体験を基に分り易い言葉で説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの意見や要望を聞いた職員は、毎朝の申し送り等で伝え、職員間で共有できるようにしています。家族様からの意見や要望は面会時に伺っています。	職員は、普段の様子から利用者の思いや意見を把握し、毎朝の申し送りで伝えると共にノートに記録して、職員全員が情報を共有できる様にしています。面会時、家族から率直な意見や希望を伺い改善に向け検討し、サービスの向上に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の様子で変化がみられる時は個別面談を行います。代表者、管理者、介護職員の位置づけでない他業種の職員より、第三者の目線での意見を頂く事もあります。	現場職員の意見を十分聞き、業務改善・就労改善へと繋げています。働きやすさやモチベーションの維持向上に、第三者の意見を出して頂く取り組みも行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算等による給与の上乗せや、定時で上げられるよう業務体制の改善、有給、特別休暇を取得しやすい環境も作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得のサポートを行っています。日々の業務でも他職種の方と接する機会を作り、相談や意見交換を行えるようにしています。ケアの質の向上の方法は申し送りを活用し周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ここ数年は、コロナウイルスの影響で、他の事業所との交流はできなくなっています。法人内の同業者とは、施設内研修等で交流を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の身体状況や不安をお聞きしています。入居時にも改めて本人様の意向、要望等を確認しサービス方法の選択、本人様、家族様にサービス内容の説明を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居予約をしてからは、定期的に施設から連絡を行い、ご本人様の様子やご家族様の困り事をお聞きしています。入居時にはある程度の信頼関係が築けているように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在利用しているサービスからの情報や本人様、家族様からの要望や困り事を伺い支援内容を選択しています。等施設だけの対応が難しい場合は、他業種も含めたサービスの利用を提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意な事などは手伝ってもらったり、意見を頂くようにしています。何かお願いごとがある時などは、ご本人様からしてあげたいという気持ちになって頂ける様、心がけています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診など家族様にも同行して頂いたり、様々な決定事項についても本人様の意向をご家族様にお伝えし意見を伺っている。また、直接本人様と家族様が話し合えるように支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されている方が地元の方が多いため散歩を兼ね近所を回ったり、入居前によく通った店や場所などを見たり通ることで、大切な思い出が途切れないような支援を行っています。	外出が困難な時期、月1回のペースで室内レクを行っています。ゲームやおやつバイキングで楽しんで頂いています。近所の散歩で昔馴染みの人に出会ったり、交流の継続に向け支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の時間や場所の提供も大事にしていますが、入居者様同士の時間作りにも力を入れています。各ユニットでの毎日の体操や歌会の時間で、入居者様同士が交流をもてるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院へ入院された方は定期的に面会など行い、状況によっては再び施設への入居も検討しています。本人様は亡くなっていますが、家族様が施設への来られ職員へ労いの言葉を頂いた事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様から日々の会話で意向を確認しています。会話が難しい場合でも顔の表情や行動を見て思いを察知するようにしています。希望や意向を把握して急な変更でも可能な場合はすぐに対応しています。	職員全員が、利用者の表情や行動から思いや意向の把握に努めています。意向の把握が困難な場合でも、利用者の視点に立って、思いを察知して対応に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居予約時から入居されるまでの間、定期的に連絡を行い、生活歴や現在の様子、利用中のサービス等の情報の確認を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は生活記録に毎日記録し、日々の気づき等は申し送りノートを活用し職員間で情報を共有しています。サービス計画書には現状の身体状況と今後の目標を記載し把握しやすくしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化するADLやIADLに対応する為、本人様、家族様、計画作成担当者と相談し、介助は現状で一番適切な方法を行えるように計画書は端的な計画書ではなく柔軟に対応できる計画書を作成しています。	介護計画は、利用者・家族・介護職員・計画作成担当者が気付いた事、意見やアイデアを出し合っています。6ヶ月の見直し以外に利用者・家族の新たな事案や状況の変化を確認しながら、職員間で共有し介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアが一目でわかる記録と日中の様子や気づきの記録、ケアの工夫や改善点の記録など状況により記録を使い分けています。記録で出た課題や問題点は担当者会議で協議し介護計画の見直し等行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の利用だけでなく、専門の病院の利用や医療保険でのサービスを利用するなど行うようにしています。現状、当施設の利用より他施設入居が良いと判断した場合、他施設への入居を斡旋しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響が出るまでは、地域の行事に参加していました。現在は外出もできない状況です。行けない会えない状況ですが今までに築いた地域との関係を損なわないように文書などで交流は続けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の受診支援を行い、日頃も体調不良等急変時での受診や夜間でも主治医と直接連絡、指示を受けています。希望により専門科の受診等の支援も行っていきます。	利用者・家族の希望するかかりつけ医として、現在は殆んどの方が、法人の医療機関を利用しています。専門医の受診には家族対応ですが、職員も同行し情報提供を行い、利用者の健康管理とともに家族へ安心と信頼、適切な医療の提供を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の様子や身体状況を随時看護職員に伝えています。看護職員は専門分野からの意見や主治医との間に入り入居者様、介護職員との連携に務めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	いつでも急な入院に対応できるように事前にできる情報等は準備し変更があれば追加も行っています。入院後は定期的に医療機関と情報交換を行い、可能ならば本人様、家族様と面会を行うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのマニュアルを作成し全員で共有している。コロナ禍で対応等変わっている為、医師、ご家族様と充分な話し合いを行い取り組んでいる。	入所時に重度化・終末期に関する方針をもとに、事業所の方向性を説明しています。今まで3名の看取りを経験しており、マニュアルの作成・勉強会等を通し、利用者・家族の思いを尊重した支援に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しています。施設では専属の看護師を中心に救急時の対応について指導を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	避難を経験し、反省点、改善点を話し合い、マニュアルを作成しています。自治会長からは防災のアドバイスを頂いています。防災の専門職の方の指導と年二回以上の総合防災訓練も継続している。	年2回以上避難訓練を実施し、地域の自治会長等の情報やアドバイスを受けながら災害対策を行っています。災害マニュアル・備蓄・利用者個々の避難リュック(依頼・情報その他)等の準備をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前から入居者様の生活歴の情報を職員は確認しています。生活歴等理解する事でより一層入居者様の人格を尊重できるように努めています。	利用者一人ひとりの尊厳を守り、誇りを傷つけない対応に努めています。特に入浴や排泄支援時にはプライバシーや羞恥心に配慮するようミーティング等で話し合い、個々に合った介護方法をとるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いをうまく伝えることが出来ない方には選択肢を作り、その中で選んで頂き、本人様の希望をなるべく汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様ごとの生活リズムで介護プラン等を作成していますが、その日の体調や気分により時間や日にちを変更しています。集団での生活なので全ての希望には対応できていない面もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に着たい洋服を選んでいただいている。靴を購入するときには業者からサンプルを持ってきて頂き、様々な種類の中から選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材を使用した料理が提供されています。入居者様には野菜を切ったり、畑で栽培した野菜を収穫し料理をしています。昼食は職員も一緒に食べる事で入居者様との会話の機会を増やしています。	法人の栄養士が季節の食材や彩に配慮して献立し、厨房で毎食手作りしています。菜園で収穫した季節の野菜等は汁物として、利用者も手伝いながら、施設の台所で手作りしています。行事食や年2回の食事レク・おやつに利用者の希望を反映し食事の楽しみに繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく摂取していただく為、どんぶりやワンプレートとにしています。また量を調整したりと一人ひとりに合わせた対応を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者様は毎食後必ず口腔ケアを行っています。歯科衛生士にも口腔内の清潔保持について協力頂いています。必要時には個別で口腔ケアの指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方にも表情や声を掛けた時の反応を見て誘導を行っています。排泄時の間違いが少なくなるように張り紙等も行っていきます。	排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、さりげない声掛けやタイミングを工夫しその人に合ったトイレ誘導を行っています。	排泄介助が必要な利用者が多く、トイレでの排泄を続けられるように支援しています。プライバシーや羞恥心に配慮する方法で、バスタオルをかける等の支援を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リズムを把握しトイレ誘導や腹部マッサージ、体操を行っています。ADL低下により排便が難しい方には医師の指示による排便コントロールを行ったり、食物繊維の多い食品を摂取しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週の始めに入浴予定日を組んでいますが、本人様の希望や体調により柔軟に曜日変更の対応をしています	入浴は基本的に3日に1度支援しています。湯温・時間等の利用者の希望を考慮し、1対1で会話ができ本音が聞ける絶好の機会と捉え、ゆっくり時間をとった支援を行っています。把握できた思いや希望は職員で共有し支援に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音や声で覚醒される入居者様もいるので入居者様の側で話しかけるよう注意しています。昼間でも生活リズムや疲れた様子、眠たそうにしている時には居室で休息してもらうような対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用し、薬の情報を共有、服薬情報等で理解するようにしています。また不明点は看護師や薬局、法人の薬剤師にも確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様から味付けや作り方を教わり、一緒に調理をしやすいメニューで食事会を開き入居者様が行える作業は手伝いをお願いしています。最近では入居者様の好みの動画を観てもらおう事もあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染予防の為外出はできていませんが、感染リスクの少ない時期は施設の周りを散歩しています。外出できない分レクリエーションで外出気分を味わっていただいています。	コロナ禍で外出は自粛を余儀なくされていますが、敷地内の散歩や、テラスを利用しお茶会や桜見物・菜園の成長具合を話したりと気分転換を図っています。また、ホールでレクリエーションや趣味を楽しむ利用者もおり、個別支援の工夫に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクの際は、各入居者様の財布を準備し、その中から食事、買い物等の支払い支援を行ったりしています。入居者様の中には自分で財布を持ち身の回り品を購入される方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望されたときは電話をしている。また電話があり本人様との会話が難しい時には職員が間に入り会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所では、入居者様のADL、性格を考慮し入居者様が一番心地居場所を選ぶようにしています。月の行事に合わせて飾りつけを行い季節を感じて頂いています。他の共用場所も毎日の清掃以外でも状況により清掃を行い清潔を維持しています。	装飾物や四季折々の制作物を飾ったり、花で季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるようソファやテーブルの配置を考慮したり、BGMを流すなど配慮しています。仲良しの利用者と同じテーブルで食事や会話を楽しむ利用者もいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車いすの入居者様も一度はソファに座っていただき他者とゆっくり交流したり、気分を変えてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持って頂いたり、施設での生活で増えた思い出の品を飾っていくようにしています。居室内の家具等も入居者様のADLに合わせて配置を換え生活しやすいようにしています。	入所前、家族に本人の使い慣れた物や馴染みの物があると安心されることを説明し、家族写真・本・ぬいぐるみ・イス・家具等が持ち込まれています。食後は居室で休まれたり、本やテレビを見たりと思い思いに寛ぎ、自分の部屋として自由に過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒やケガを防止し、尚且つご本人様が自分らしく生活できるように職員間で話し合い配置している。危険だと思う配置には本人様に説明し変更している。		